

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 3 日現在

機関番号：34511

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520517

研究課題名(和文) 宮内庁書陵部所蔵鷹書についての日本語学的研究

研究課題名(英文) The linguistic studies on the falconry books owned by Imperial Household Library

研究代表者

三保 忠夫 (MIHO, Tadao)

神戸女子大学・文学部・教授

研究者番号：60093811

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)： 宮内庁書陵部に所蔵される「鷹書」全737点につき、悉皆調査を行った。併せて日本各地の資料館・大学図書館などに所蔵される主な鷹書の調査・研究を行った。研究結果：宮内庁書陵部の鷹書の基底をなすのは雲州松江藩の収集・制作した鷹書であることについて述べ、同藩が、この大量の鷹書を収集した経緯について解明した。また、宮内庁書陵部の鷹書・日本各地の鷹書につき、これらを1)公家に関わる鷹書、2)中世武家に関わる鷹書、3)公儀鷹匠・鷹匠同心などに関わる鷹書、4)松江藩鷹方に関わる鷹書、その他に大分類し、個々の写本について詳述した。かつ、これら鷹詞の研究を行い、その日本語研究資料としての意義について考究した。

研究成果の概要(英文)： There are 737 falconry books owned by the Imperial Household Library. 639 of those were donation books from the Matsue feudal clan donated it to the study. The falconry books are possessed to some libraries or some historical materials building of each place of Japan, too. I investigated such books as much as possible. And I classified them as follows and analyzed it in detail. In other word, it is 1).court nobles, 2).samurai family of the Middle Ages, 3).falconer of official affairs, 4).falconer of the Matsue feudal clan, 5).others. I analyzed falconer's terminology and considered significance as the Japanese data for the study.

研究分野：日本語学

キーワード：鷹詞 鷹書 鷹狩 日本放鷹文化

1. 研究開始当初の背景

(1) 宮内庁書陵部に所蔵される「鷹書」類は、都合 737 点を数える(宮内庁書陵部『和漢図書分類目録』、昭和 26 年、「田獵」部)。全国を見渡し、1 機関(施設)でこれほどの点数を所蔵する機関は他に見当たらない。この言語資料群は、日本語研究資料として、ひいては、日本文化研究資料、放鷹文化研究資料として等閑視することはできない。これを正面に据え、総合的な調査・研究を経て諸学科において活用していく必要がある。

(2) 書陵部のこの「鷹書」群は、諸家の寄贈になるものである。就中、「松江藩松平家」からの寄贈書は 636 点(全体の 86.3%)を数え、これに次ぐのが松岡文庫旧蔵書 67 点(同 9.1%)、桂宮本 15 点(同 2.0%)、御所本 11 点(同 1.5%)などである。

2. 研究の目的

(1) まず、宮内庁書陵部所蔵の「鷹書」の全てにつき、丹念に書誌的調査、内容・構成の調査、それぞれに関与する人物の調査などを行わなければならない。

(2) 総じて、この日本には、どのような鷹書が、どのように存在するのか、確認したい。それぞれの鷹書がどのように関わり合うのか、可能の限り調査する必要がある。

このためには、宮内庁書陵部に留まらず、国立公文書館内閣文庫(江戸幕府の典籍を保有)、尊経閣文庫・金沢市立図書館(前田家ゆかりの典籍・文書を保有)、肥前嶋原松平文庫など、また、内藤記念くすり博物館・武田科学振興財団杏雨書屋・富山大学医薬学図書館(鷹の医薬書を保有)、その他、東北大学から熊本大学などの研究機関、国公立図書館・資料館等に所蔵される「鷹書」類の調査を実施しなければならない。

(3) 松江藩が、それほどまでの「鷹書」を保有していたのは何故か、どのような経緯を有するのか。その「鷹書」群は、どのような趣旨で収集されたのか、何を目的としたものか、究明する必要がある。

(4) 古来、西園寺公経詠『鷹百首注』、二条基房詠『鷹詞連歌』、藤原良経詠『鷹三百首注』、藤原定家詠『鷹三百首』、近衛前久詠『鷹百首注』として伝えられてきた定数歌群がある。これらが編纂された動機、また、その背景について考察したい。

3. 研究の方法

(1) 宮内庁書陵部の「鷹書」群については、簡略ながら、先に福井久蔵氏が『放鷹』(宮内省式部職編、1931 年、吉川弘文館刊)において「本邦鷹書解題」として紹介・解説されたものがある。しかし、爾来、80 余年を経ている。恐れながら、諸点に不備や綻びも目立つようである。そこで、今回、全体的な総合調査、即ち、悉皆調査を行い、それぞれの内容・構成の分析、関係する人物の調査など、総合的な検討を行うこととした。

書陵部所蔵の「鷹書」群を調査・研究するには、上記のような各地の機関・施設に所蔵される「鷹書」類も広く見渡し、比較していかなければならない。同種類の、あるいは、関連する「鷹書」類を参看しながら、それぞれ“本文・内容”を検討していくことになる。その“撰述者”“相承者”“転写者”“収集者”“制作者”などにつき、時間的・空間的な分析を行う。

“奥書・識語”、また、“蔵書印”などの検討も行いたい。

(2) 「松江藩松平家」関係の「鷹書」類の解明については、同藩の古記録・文書、特にその人事記録を手繰ることになる。

(3) 「鷹詞」(語彙・表現法)の分析については、まず、中世・近世の“鷹歌関係資料”における“古注釈書の視点”に学ぶこととした。そこに“注釈”することの必要性があったと考え、我々はこの点を注視すべきだと考えたからである。

4. 研究成果

(1) 宮内庁書陵部に所蔵される「鷹書」737 点の全てにつき、悉皆調査を終えた。

(2) その 737 点の内、「松江藩松平家」の寄贈書は、636 点であるが、これは「田獵」の部だけの数字であり、実は、この部以外にも同家からの寄贈書があった。これらは、理学・動物、古代兵事、古代法制、有職故実(四条流包丁刀、同祝之巻など)などの書としてそれぞれ「田獵」以外の部に登録されていたのである。だが、この分類は、今日的な分類法である。本来、「鷹書」と称されてきたものは、これらをも含めた総体をその“範疇”とするものと理解しなければならない。これは、「鷹書」の定義に関わる問題である。

(3) 宮内庁書陵部所蔵の「鷹書」に関連し、各所の鷹書調査を並行して行った。

(4) 「鷹詞」の考察は、連歌古注釈書に見られる方法(視点)を取り入れ、これを行った。

いわゆる「鷹詞」といわれるものには 2 様がある。

その 1 は、「鷹詞」= 歌語(「鷹のことば」)であり、これは、いわゆる“位相語”に相当するものではない。その 2 は、「鷹詞」= 位相語であり、広く鷹狩専用の言葉を用いる。

は、中古・中世における公家の詠歌の場における注釈用語であった。は、中世末から近世の主に武家時代における鷹狩の場における用語、また、和学・国学・有職故実学等の場における用語であった。

(5) 宮内庁書陵部所蔵の「鷹書」に関する総合調査、また、これに伴う鷹書調査は、今日、他に例を見ない大部の研究報告書となった。この概要は下記のとおりである。

- 第1部 宮内庁書陵部所蔵の鷹書 総論
宮内庁書陵部所蔵の鷹書、松平直亮氏の鷹書「寄贈願」、松江藩における鷹書収集事業、藩主松平齊貴(齊斎)、雲州版『延喜式』校訂・出版の経緯、鷹書収集の背景、むすび、[資料](寄贈願の)「別紙目録」(翻字)
- 第2部 宮内庁書陵部所蔵の鷹書
- 1章 公家 嵯峨天皇、二条基房、慈鎮、藤原良経、藤原定家、西園寺公経、北山女院、実兼、公衡、二条道平、良基、一条兼良、持明院基春、基規、近衛前久、
- 2章 中世武家 土岐頼忠、善忠、斎藤利永、江崎山城入道、雀部藤右衛門入道宗淵、赤沢宗益、朝倉太郎左衛門、(中略) 禰津神平貞直、禰津常安、など、(以下略)
- 3章 公儀鷹匠・鷹匠同心 間宮左衛門尉信繁、荒井豊前守、荒井藤七郎、荒井六郎左衛門、吉田多右衛門尉家元、吉田次郎三郎、真野三右衛門正次、根本五兵衛尉、山本藤左衛門盛近、中条惟栄、(後略)
- 4章 松江藩御鷹方関係者 野間善兵衛入道安心、加藤一染、狩野永雲、堀江佐次右衛門、(後略)
- 5章 徳川将軍家・幕臣、諸侯・諸藩鷹匠、松平忠直、横井時久、横井時安、徳川秀忠、依田十郎左衛門守広、依田源五貞広、(以下略)
- 6章 絵師、僧侶 狩野元信、(以下略)
- 7章 有職故実家、国学者・文人、連歌師等 伊勢常真、因幡如芸、(以下略)
- 8章 李氏朝鮮 李瑢、李爛
- 9章 未詳の人物 (以下略)
- 付章 『大緒繫形集』(松平家旧蔵、37冊)について
- 第3部 鷹詞の研究
- 1章 鷹狩言葉の諸相 緒言、古代の鷹狩言葉(万葉時代、王朝時代)、中世の鷹狩言葉(西園寺家鷹百首、西園寺家鷹秘伝、連歌書、龍山公鷹百首、日葡辞書)、近世の鷹狩言葉(「鷹詞」の収集、古今要覧稿、鷹詞江戸ト出雲之相違書上)、結語、
- 2章 鷹詞の研究資料(翻刻)
類聚鷹歌抄・早稲田大学蔵本
増補類字鷹詞・東京大学蔵本
鷹之詞類聚・京都府立資料館蔵本
鷹詞集・国立公文書館内閣文庫蔵本
- 3章 宮内庁書陵部蔵『鷹詞 江戸ト出雲之相違書上』(翻刻・注釈)

(6)「鷹書」は、王朝時代から近年における日本の放鷹文化の“語り部”である。“鷹書”を読み解き、我が国放鷹文化を解析し、日本の誇るべき文化遺産の1つとして、国際文化交流・国際相互理解の場に発信していきたい。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

- [雑誌論文](計 6件)
- 三保忠夫、西園寺家(公衡、実遠、公藤)の鷹書 宮内庁書陵部所蔵の鷹書・鷹詞の研究、神戸女子大学文学部紀要、査読有、48、2015、pp.1-18、
- 三保忠夫、西下する鷹匠、児玉経平、斎藤恒平、板垣経平、熊谷経平、神女大國文、査読なし、26、2015、pp.29-46、
- 三保忠夫、二条道平、良基、一条兼良の鷹書 宮内庁書陵部所蔵鷹書・鷹詞の研究、神戸女子大学文学部紀要、査読有、Vol.47、2014、pp.1-16、
- 三保忠夫、李瑢撰『古本鷹鶴方』・李爛撰『新增鷹鶴方』について 宮内庁書陵部所蔵鷹書・鷹詞の研究、神女大國文、査読なし、Vol.25、2014、pp.23-40、
- 三保忠夫、鷹匠吉田多右衛門とその鷹書について 宮内庁書陵部所蔵鷹書・鷹詞の研究、神戸女子大学文学部紀要、査読あり、Vol.46、2013、pp.1-15、
- 三保忠夫、一橋家鷹匠原田三野右衛門とその鷹書 宮内庁書陵部所蔵鷹書・鷹詞の研究、神女大國文、査読なし、Vol.24、2013、pp.120-136、

[学会発表](計 0件)

[図書](計 0件)

[産業財産権]
出願状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]
ホームページ等

6. 研究組織
(1)研究代表者

三保 忠夫 (MIHO, Tadao)
神戸女子大学・文学部・教授
研究者番号：60093811

(2)研究分担者
(0)

研究者番号：

(3)連携研究者
(0)

研究者番号：